

【安芸市】校務 DX 計画

1. 安芸市における校務 DX の取組について

安芸市では令和2年度より校務支援システムを導入し、校務管理や教員同士の情報共有のデジタル化を推進し、教職員の資質・指導力の向上を図ってきた。令和5年度からは、教職員がこれまでウェブページ作成ソフトを用いて行ってきた小中学校ホームページの情報発信を CMS 化することで、情報発信を効率化し、また同年、保護者連絡アプリを導入し、教職員と保護者間の連絡（保護者から出欠連絡、学校からの配布文書等）をデジタル化した。

2. 「校務 DX チェックリスト自己点検結果」における課題等について

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省・令和5年11月実施）を数値化した結果では、市内全校の平均値において、高知県全域の平均得点を下回っている。（当市平均：323.2点、高知県全域平均：368.8点、全国平均：363.0点）

上記の結果を踏まえ、特に以下の3点について、各学校と連携を図りながら校務 DX の推進を図っていく必要がある。

（1）学校と保護者間における情報共有

当市においては、上記に記載したとおり保護者連絡アプリを導入しており、教職員と保護者間の連絡等にクラウドサービスが活用できる環境にある一方で、令和6年度チェックリストに基づく自己点検の結果によると、保護者と学校間の連携に関する回答（例：「業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか」、「保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか」等）における学校の回答が「全くしていない」との回答が50%以上を占める結果となっており、学校と保護者間における情報共有方法について課題が見られる。保護者への情報提供と問い合わせの手段となる各小中学校ホームページの更新の取組の強化、保護者連絡アプリの機能の周知や研修を設け、令和7年度にかけて本課題についての取組を推進する。

(2) FAX ・ 押印の見直しと校務支援システムへの手入力作業の一掃

令和6年度チェックリストに基づく自己点検の結果によると、市内9校のうち、6校において日常的FAXを活用している。また、市内全校の学校で、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があると回答している。本結果を踏まえてFAXや押印等について、各学校やFAXでの送付や押印を求めている関係団体・事業者等を把握する等現状の実態の調査を行い、制度・慣行の見直しを推進する。

また、校務支援システム等の名簿情報の手入力については、各校に状況調査を行い、手入力を行っている実態があるか確認したうえで是正を行う予定である。

(3) 教育ダッシュボードの活用

児童生徒一人一人の各種「教育データ」(学習系データ、教育行政データ、児童生徒の出欠席及び成績情報等の校務系データ等)を収集・分析・可視化する教育ダッシュボードを構築し、それらの情報を効果的に活用して業務及び授業の改善につなげることが期待されている。

教育ダッシュボードの構築については、費用対効果を鑑み、高知県が取組を推進している「高知家まなびばこ」のダッシュボード機能等を活用する等、当市にとって最適な教育ダッシュボードの構築について調査研究を行う予定である。